

### 第三回がん研若手コロキウム開催報告

令和3年7月28日、若手育成の一環として「第三回がん研若手コロキウム」を開催しました。本会は学生とポスドクの研究発表会であり、口頭発表および質疑応答のスキル向上を目的としています。本会の特徴として、討論時間に学生・ポスドクが優先的に質問できる時間を設けたり Best Discusser 賞を表彰したりするなど、学生・ポスドクが積極的に質問できる環境を作っています。本年も学生・ポスドクらが積極的に議論に参加しました。（発表者 11 名、会場参加者 40 名、オンライン参加者 29 名）

#### <がん研若手コロキウム特別ルール>

- ・会場には学生・ポスドクのみが集まり、教員はオンラインでの参加に限る。
- ・討論時間の前半は学生・ポスドクのみが質問できる。
- ・Best Discusser 賞および Best Presenter 賞を参加者の投票で選出する。
- ・Best Discusser 賞の対象者はコロキウムに参加した学生・ポスドクの全員とする。
- ・受賞者はがん研の HP に掲載される。受賞したことを CV に書くのも可。
- ・発表および質疑応答は基本的に英語で行う。

**Best Discusser 賞には Mengjiao Li さんと Jindan Sheng さん、Best Presenter 賞には Mengjiao Li さんと Pham Thi Loc が選ばれました。**

#### プログラム

##### **3rd Ganken Colloquium (July 28, 2021)**

Online / NanoLSI 4F Main Conference Room

13:00 - 13:10 Opening remarks

##### **Session 1** (Chair: Dominic C. VOON)

13:10 - 13:25 Atsuya Morita

13:25 - 13:40 Bolidong Dilireba

13:40 - 14:55 Jing Yongwei

13:55 - 14:10 Mengjiao Li

##### **Session 2** (Chair: Masaya Ueno)

14:30 - 14:45 Yumi Terakado

14:45 - 15:00 Jindan Sheng

15:00 - 15:15 Batbayar Gerelsuren

15:15 - 15:30 Ryusuke Suzuki

##### **Session 3** (Chair: Yasuto Takeuchi)

15:50 - 16:05 Pham Thi Loc

16:05 - 16:20 Hai Yu  
16:20 - 16:45 Masahiro Uehara  
  
16:45 - 16:55 Closing remarks  
16:55 - 17:00 Awards ceremony

## Photographs



Best Presenter 賞に選ばれた Mengjiao Li さん（左）と Pham Thi Loc さん（右）。授賞式では松本所長より賞金が贈呈されました。



Best Discusser 賞の授賞式。受賞者は Mengjiao Li さん（左）と Jindan Sheng さん（右）。Li さんは Best Presenter 賞とのダブル受賞、Sheng さんは昨年引き続きの Best Discusser 授賞です。





### コロキウムを終えて

昨年までと同様に、令和3年度のがん研若手コロキウムでも世話人を務めさせていただきました。本会は学生・ポスドクに研究発表の場を提供することを目的に平尾前所長のご発案から立ち上げられましたが、今年で3回目となり、その存在と理念が所内にも認知されてきたものと考えております。また、平尾前所長の任期満了に伴い今年度より松本先生が新所長に就任されましたが、本会は新体制でも継続されることになりました。若手育成の場として確立しつつあることにやり甲斐と喜びを感じております。

今年も新型コロナウイルスの流行が続いているため、会場は大学院生とポスドクの専用とし、教職員はオンラインでの参加というハイブリッド開催の方式を採用しました。この方式は、会場での十分なソーシャルディスタンスの確保だけでなく、学生・ポスドクが質問しやすい環境の形成にもつながるため、必ずしも悪い面ばかりではありません。しかしながら、オンラインで音声聞き取りづらいという運営上の不手際が生じてしまいました。これは、新しい会場では昨年度の本会で使用したオンライン中継機器を使用できず、新たにハイブリッド開催の環境を整えたためですが、テストでは良くて本番では（おそらく特に喋り方の違いなどから）不十分であるなど、非常に難しいところがありました。準備不足を反省するとともに、今後の改善点にしたいです。

今回は11名が研究成果を発表してくれました。演者の皆さんおよび日頃より彼らの指導にあたって先生方に感謝申し上げます。研究所内の学生・ポスドクの総数が約50人ですので、対象者の皆さんが4,5年に一度は発表すること、すなわち、大学院博士課程への入学から最終年までには自身の研究発表ができるようになることを想定していただければありがたいです。そして、それまでにどの程度のレベルの仕事をするべきなのか、本会への参加を通じてある程度の目標を持っていただくことができれば開催する意義もさらに大きくなります。また、本会では学生・ポスドクに質問応答を経験してもらうことも目標にしていますが、今年の質疑応答も例年通りの活発さであり、Best Discusser賞の得票上位に新たな顔ぶれが出てくるなど、ある程度の成功は収めたと考えております。しかし、学生・ポスドクの全員が質疑応答に参加したわけではないなど、良くも悪くも安定した印象であり、運営側として若干の停滞を感じております。彼らがより情熱的に、それこそマイクを取り合う程の積極さで質問に立てるようにするには、動機付けや雰囲気作りなどでさらに工夫すべき点があるように思います。

最後に、本会の開催にお力添えいただきました皆様方に心より御礼申し上げます。

がん進展制御研究所・PI准教授  
土屋晃介